あいち産業科学技術総合センター

(Aichi Center for Industry and Science Technology)

令和７年度　事業計画書

愛知県

内容

センターの紹介 1

Ⅰ　運営方針 3

Ⅱ　事業計画 5

1．産学行政連携の推進 5

（1）産学行政の連携による共同研究開発の推進 5

（2）連携体制の構築・維持 6

2．研究開発の推進 7

（1）特別課題研究 7

（2）経常研究 14

（4）新たな知的財産の創出、特許や技術の利活用 21

3．技術指導の充実 22

（1）重点研究プロジェクト成果活用プラザの設置と運用 22

（2）高度な計測分析機器（シンクロトロン光含む）の活用 22

（3）トライアルコアの運用 22

（4）産業空洞化対策減税基金（「減税基金」）による支援 23

（5）技術課題解決のための所内及び現場での技術相談・指導の実施 23

（6）オンライン技術指導の実施 23

4．人材育成への支援 24

（1）企業ニーズに応じた技術研修の実施 24

（2）研修生の受入 24

（3）業界団体と連携した研修の実施、講師派遣 24

5．技術開発、技術交流への支援 25

6．情報の収集・提供 26

（1）講習会等の開催 26

（2）研究報告、広報資料や展示会によるセンター活動の報告 26

7．依頼業務 28

（1）製品・原材料の分析・試験等 28

（2）機械器具類の貸付 28

（3）会議室等の貸館 29

（4）受託研究の実施 29

企業からの依頼により、受託研究を実施する。 29

8．科学技術の普及啓発 30

9　職員の資質向上 30

Ⅲ　予算概要 31

1．歳入 31

２．歳出 32
３．施設の整備計画 33
Ⅳ　参考資料 34
１．組織図及び定数 34
（１）組織図 34
（２）定数 34
２．土地及び建物 34
（１）土地 34
（２）建物 35
■巻末 36

センターの紹介

～産業・科学技術の創造から中小企業の技術支援まで総合的に支援～

【使命】

あいち産業科学技術総合センターは、「知の拠点あいち」において、産学行政の連携による共同研究の場の提供や、高度計測分析機器による分析評価など、「付加価値の高いモノづくり技術を支援する研究開発拠点」に向けて取り組んでいます。また、「産業技術センター」をはじめ県内各地の各技術センター・試験場を拠点として地域企業への総合的な技術支援を行っています。

（あいち産業科学技術総合センターアクションプラン 2021～2025「はじめに」より）

【沿革】

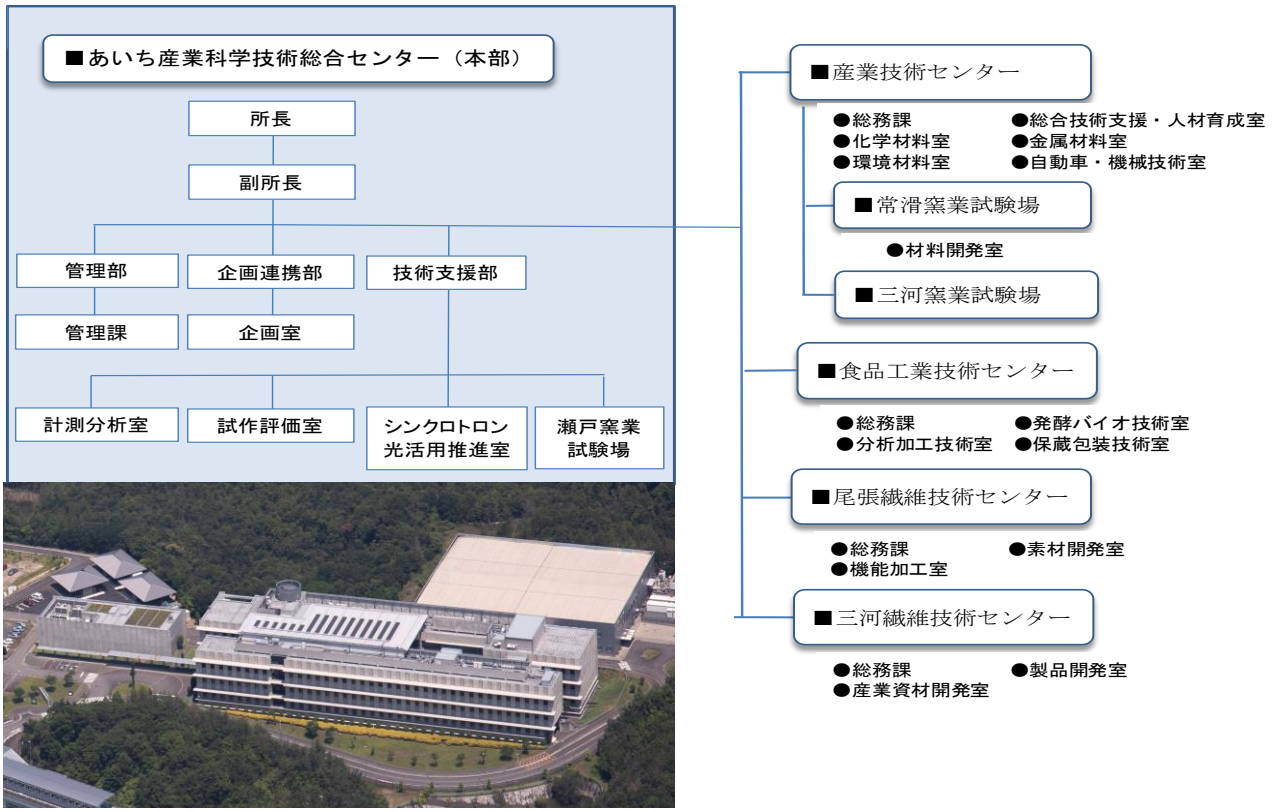
昭和 02 年 07 月	愛知県三河染織試験場（現 三河繊維技術センター）の設置
昭和 05 年 09 月	愛知県尾張染織試験場（現 尾張繊維技術センター）の設置
昭和 16 年 06 月	愛知県常滑陶磁器試験場（現 常滑窯業試験場）の設置
昭和 25 年 02 月	三河繊維技術センター豊橋分場の設置
昭和 26 年 03 月	愛知県工業指導所（現 産業技術センター）の設置
昭和 29 年 10 月	常滑窯業技術センター三河分場（現 三河窯業試験場）の設置
昭和 31 年 04 月	愛知県食品工業試験所（現 食品工業技術センター）の設置
昭和 46 年 02 月	愛知県瀬戸窯業技術センター（現 瀬戸窯業試験場）の設置
昭和 56 年 06 月	愛知県工業技術センター（現 産業技術センター）の設置（愛知県工業指導所の廃止）
平成 06 年 04 月	愛知県技術開発交流センターの設置
平成 08 年 10 月	愛知県知的所有権センターの設置
平成 14 年 04 月	愛知県産業技術研究所の設置（現 産業技術センターを本部とし、４センター及び３窯業試験場が統合された総称）
平成 24 年 01 月	あいち産業科学技術総合センターの設置（本部機能を愛知県産業技術研究所から移転）
平成 24 年 03 月	三河繊維技術センター豊橋分場の廃止
平成 30 年 04 月	産業技術センターのもとに常滑窯業試験場、三河窯業試験場、瀬戸窯業試験場を組織改編
令和 06 年 04 月	あいち産業科学技術総合センターのもとに瀬戸窯業試験場を組織改編し移転

【事業内容】

研究開発	大学等の研究シーズを企業の製品化へと橋渡しする産学行政連携による共同研究や、産業界における技術ニーズに対応した技術開発など、様々な研究開発を行い、その成果を地域産業界に広く普及することにより、企業の新技術・製品開発を支援します。
依頼試験 （計測分析・性能評価）	製品の品質管理、製品開発に役立てるため、企業の方からの依頼により、高度計測分析機器などを用いて、各種の材料・製品の試験、分析、測定などを行います。
試作・評価	ＣＡＤシステム、三次元造形装置、シミュレーション装置のほか、基本的な工作装置を導入し、試作品の作製、評価を支援します。
技術相談・指導	製品開発における技術上の様々な問題について、研究員が相談・指導を行います。
技術情報の提供・人材育成	研究開発成果や新しい技術情報の普及を図るための講演会及び研究会を開催します。また、新製品・新技術を生み出す創造開発型の人材を育成します。

【組織図】

あいち産業科学技術総合センター



【所在地】

名称	所在地	電話番号／ＦＡＸ ＵＲＬ
あいち産業科学技術総合センター（本　　部）	〒470-0356 豊田市八草町秋合1267-1	0561-76-8301／0561-76-8304 https://www.aichi-inst.jp/
瀬戸窯業試験場	同上	0561-21-2116／0561-21-2128 https://www.aichi-inst.jp/seto/
産業技術センター	〒448-0013 刈谷市恩田町1-157-1 ＜総務課＞（自動音声案内） ＜総合技術支援・人材育成室＞ ＜化学材料室＞ 燃料電池 無機分析 高分子 ＜金属材料室＞ 金属加工 金属表面加工 ＜環境材料室＞ バイオ 物流技術 木材加工 ＜自動車・機械技術室＞ 機械技術 自動車	0566-24-1841／0566-22-8033 https://www.aichi-inst.jp/sangyou 0566-24-1841 0566-45-5640 0566-45-5641 0566-45-5642 0566-45-5643 0566-45-5644 0566-45-5645 0566-45-6901 0566-45-6902 0566-45-6903 0566-45-6904 0566-45-6905
常滑窯業試験場	〒479-0021 常滑市大曽町4-50	0569-35-5151／0569-34-8196 https://www.aichi-inst.jp/tokoname/
三河窯業試験場	〒447-0861 碧南市六軒町2-15	0566-41-0410／0566-43-2021 https://www.aichi-inst.jp/mikawa-yougyou/
食品工業技術センター	〒451-0083 名古屋市西区新福寺町2-1-1	052-325-8091／052-532-5791 https://www.aichi-inst.jp/shokuhin/
尾張繊維技術センター	〒491-0931 一宮市大和町馬引字宮浦35	0586-45-7871／0586-45-0509 https://www.aichi-inst.jp/owari/
三河繊維技術センター	〒443-0013 蒲郡市大塚町伊賀久保109	0533-59-7146／0533-59-7176 https://www.aichi-inst.jp/mikawa/

Ⅰ　運営方針

あいち産業科学技術総合センターでは、「あいち産業科学技術総合センターアクションプラン 2021～2025」（以下、「アクションプラン」）に掲げる施策の２本柱（『イノベーションエコシステム（※）の形成』、『中小・小規模企業の企業力強化』）の下、16 のアクションに基づいて、事業を実施します。

具体的には、産学行政連携で共同研究開発を推進するとともに、中小・小規模企業の企業力を強化するため、研究開発、技術支援、次代の産業を担う高度人材づくりを進めます。また、感染症等大規模災害への非常時対策を意識して、オンラインで技術相談、技術情報の発信等を実施し、デジタル化を推進、定着を図ります。

【アクションプランの構成】

＜柱１＞　イノベーションエコシステムの形成～絶え間ないイノベーションの創出拠点を目指して～

・産学行政連携の研究開発の推進、各センターの機能強化に係る 7 つのアクション

＜柱２＞　中小・小規模企業の企業力強化～地域産業の持続的発展を支える技術拠点として～

・地域産業のための研究開発、技術支援に係る 8 つのアクション

・デジタル化に係る 1 つのアクション（非常時対策）

※イノベーションエコシステムとは、「イノベーション創出の循環（エコシステム）」を意味する言葉であり、サプライヤーや顧客といった、いわば「仲間」を巻き込んで価値をつくっていくことと定義する。

（「アクションプラン」より）

（１）本事業計画書とアクションプラン

本事業計画書は、アクションプランに基づいて実施する各事業を、以下の事業項目（大項目）に割り当て、掲載しています。

事業項目（大項目）	アクションプラン	
	柱１（イノベ）	柱２（中小）
１．産学行政連携の推進	○	
２．研究開発の推進		○
３．技術指導の充実	○	○
４．人材育成への支援		○
５．技術開発、技術交流への支援	○	○
６．情報の収集・提供	○	○
７．依頼業務	○	○
８．科学技術の普及啓発	○	
９．職員の資質向上	○	○

本事業計画書の事業項目（大項目）とアクションプランの 16 アクションとの対応は、次項の対応表をご参考ください。本文中、中項目（かっこ書き）に、該当するアクションを示すナンバー（A1～A16）を付記しています。

また、アクション（A1～A16）から、該当する事業項目を調べるには、巻末の対応表（アクションプラン→事業）もあわせてご参照ください。

（２）事業項目（大項目）とアクション（A1～A16）の対応表

事業項目（大項目）	アクションプラン		
	柱１ イノベ	柱２ 中小	アクション（A1～A16）
１．産学行政連携の推進	○		(A1)　イノベーション創出を目指した大型プロジェクト及び応募型事業への参加 （重点研究プロジェクト、各種応募型研究事業） (A2)　技術・設備の相互補完に向けた他機関との連携強化 （広域、他公設試、他機関の技術者）
２．研究開発の推進		○	(A8)　中小・小規模企業のニーズに応える研究 (A9)　受託研究・共同研究事業等の実施と再構築 （共同研究事業の実施） (A13) 地域企業の技術課題解決のための技術相談・指導 （新たな知的財産の創出と、特許や技術の利活用）
３．技術指導の充実	○		(A5)　産学行政連携研究プロジェクトをはじめとした研究成果の、多様な県内企業への技術移転 （成果活用プラザ、トライアルコアの運用） (A6)　高度計測分析機器・試作評価機器の整備・活用 （利用促進研究、シンクロトロン光との相互の有効利活用の実施）
		○	(A13) 地域企業の技術課題解決のための技術相談・指導 (A16) デジタル化による事業継続及び災害・感染症対策に資する支援 （ICT を活用したオンライン会議、技術相談指導の実施）
４．人材育成への支援		○	(A11) 業界団体と連携した企業等の技術人材育成
５．技術開発、技術交流への支援	○		(A6)　高度計測分析機器・試作評価機器の整備・活用 （地域計測分析機器情報提供システムの運営）
		○	(A8)　中小・小規模企業のニーズに応える研究 （企業ニーズの把握） (A10) 企業ニーズに応じた依頼試験、貸館等による企業支援 （企業ニーズの把握） (A13) 地域企業の技術課題解決のための技術相談・指導 （他産業への新規参入支援） (A15) 地域産業活性化のための地域連携支援
６．情報の収集・提供	○		(A6)　高度計測分析機器・試作評価機器の整備・活用 （特定の技術分野での課題解決のための技術講習会等の開催）
		○	(A14) 技術情報等の発信
７．依頼業務	○		(A7)　機器購入、機器更新、メンテナンスの計画的実施 （機械器具類の貸付）
		○	(A9)　受託研究、共同研究事業等の実施と再構築 （受託研究の実施） (A10) 企業ニーズに応じた依頼試験、貸館等による企業支援
８．科学技術の普及啓発	○		(A4)　理系人材醸成の推進 （こども科学教室、施設見学）
９．職員の資質向上	○		(A3)　職員の専門技術の伝承と新技術の習得 (A6)　高度計測分析機器・試作評価機器の整備・活用 （職員の知識の習得）
		○	(A8)　中小・小規模企業のニーズに応える研究 （高度研究活用推進）

※アクション（A1～A16）の具体的な取組み内容は、アクションプランをご参照ください。

Ⅱ　事業計画

１．産学行政連携の推進

【A1】

（１）産学行政の連携による共同研究開発の推進

① 重点研究プロジェクトの推進

愛知県の地域産業が抱える技術的課題の解決に向け、大学や企業等の研究シーズを活用する共同研究開発プロジェクトを推進する。

※重点研究プロジェクト（Ⅴ期）

■コンセプト　：大学等のシーズを企業が製品化するための橋渡しとなる産学行政連携による共同研究開発

■期　　間　：４ヶ年計画（令和７年度（２０２５年度）～ 令和１０年度（２０２８年度））

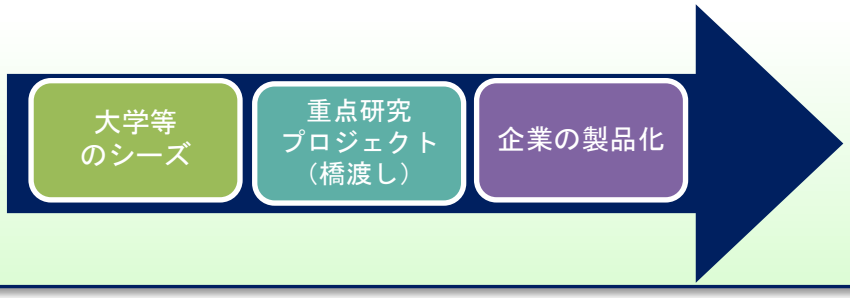
■重点研究プロジェクトⅠ～Ⅳ期の取組を踏まえ、柔軟な研究枠の設定などの仕組み、DX 関連技術の活用、産業分野の最適組合せにより、愛知の産業のグローバルな競争力強化と SDGs（DX 化、GX など）へ貢献する目的で４分野を設定

① **マニュファクチャリング**
【本県産業の基盤となる先進加工、制御技術、次世代モビリティ向けの革新材料等技術　等】

② **ヘルスケア**
【医療関係者・患者をサポートする医療・介護福祉技術　等】

③ **アグリ･フィッシュ**
【農作物の生産や漁業の収量拡大をめざすスマート技術　等】

④ **カーボンニュートラル**
【革新的材料・水素等を活用して脱炭素社会を実現する技術　等】



② 国プロジェクトや各種応募型研究事業への応募・参加

地域提案型の国プロジェクト等の産学行政連携研究プロジェクトへの応募と参加を行う。

＜当センターが参画する研究プロジェクト＞

・経済産業省　成長型中小企業等研究開発支援事業(Go-Tech 事業)への参画

研究テーマ	研究機関
カーボンニュートラルに貢献するトポロジー最適化構造を組込んだ高機能切削工具用ツールホルダの開発	・瀬戸窯業試験場 ・三河繊維技術センター ・技術支援部（３室）（注）
女性の不調を未病段階で検査し健康改善プランをレコメンドする検査サービスの開発	・食品工業技術センター

※研究の概要は、特別課題研究（No. 4、No. 10）をご覧ください。

（注）技術支援部（３室）とはシンクロトロン光活用推進室・計測分析室・試作評価室（旧共同研究支援部）の３室をここでは指す。

・国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）　研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP）産学共同（育成型）への参画

研究テーマ	研究機関
白金の超強度化技術による大型モビリティ搭載用固体高分子形燃料電池電極触媒の開発	・産業技術センター

※研究の概要は、特別課題研究（No.6）をご覧ください。

・国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）　新エネルギー等のシーズ発掘・事業化に向けた技術研究開発事業「社会課題解決枠フェーズB（基盤研究開発）」への参画

研究テーマ	研究機関
燃料電池セルの搬送・積層を超高速化する基本機構の研究開発	・産業技術センター

※研究の概要は、特別課題研究（No.7）をご覧ください。

（２）連携体制の構築・維持　【A2】

① 広域的連携体制の構築・維持

中部地域公設試連携により導入した機器の活用を行う。

② 他公設試との連携

産議連連絡会議等への参加を通じて、他公設試験機関、研究機関、学協会等との人的交流と情報交換を積極的に進める。また、他公設試験機関等と連携して、モノづくり技術の創造・発信を図る。

③ 研究会による他機関の技術者との交流

センター主導の研究会の設置や提案をする。また、他機関が主導する研究会へ参加し、広く他機関の技術者との専門的な人的交流と情報交換を進める。

２．研究開発の推進

研究業務は、特別課題研究と経常研究の二つに区分し、中小企業の抱える技術的課題解決のための基礎的な研究に加え、新たに地域において重点的に取り組む戦略的振興分野に関する研究を行う。

（１）特別課題研究 【A8】

＜特別課題研究一覧　（産業界の要請に対応して取り組む共同研究や応用研究）＞

No	研究テーマ	研究機関
1	シンクロトロン光利用案件組成研究 （ポリマーブレンドの３元可視化手法の検討）	本部(技術支援部) 三河繊維技術センター
2	シンクロトロン光利用案件組成研究 （CNF 分散銅抗菌剤の化学状態分析）	本部(技術支援部) 産業技術センター
3	釉薬テストピース及び釉薬データベースの活用	瀬戸窯業試験場
4	カーボンニュートラルに貢献するトポロジー最適化構造を組込んだ高機能切削工具用ツールホルダの開発	瀬戸窯業試験場 三河繊維技術センター 本部(技術支援部)
5	オープンソースソフトウェアを用いたロボットシステムの構築	産業技術センター
6	白金の超強度化技術による大型モビリティ搭載用固体高分子形燃料電池電極触媒の開発	産業技術センター
7	燃料電池セルの搬送・積層を超高速化する基本機構の研究開発	産業技術センター
8	水素工業炉の利用に関する研究	常滑窯業試験場 三河窯業試験場 瀬戸窯業試験場
9	溜醤油醸造用乳酸菌スターターセットの開発	食品工業技術センター
10	女性の不調を未病段階で検査し健康改善プランをレコメンドする検査サービスの開発	食品工業技術センター
11	発電機能を有するテキスタイルの開発	尾張繊維技術センター
12	画像生成 AI を用いた繊維製品における異常画像の作成	尾張繊維技術センター
13	環境に配慮した電界紡糸法の検討	三河繊維技術センター

シンクロトロン光利用案件組成研究（1/1） ポリマーブレンドの3可視化手法の検討（1/1）			No. 1
研究機関／担当者		本部（技術支援部） 三河繊維技術センター	杉山 信之、福岡 修 中西 裕紀
研究の概要	研究の内容	様々な種類を持つ高分子材料は、高機能向上のためにブレンドや複合化が行われる。このような材料の評価は混合の割合や分布など、構造の評価が必須となる。しかしながら、密度差の小さいポリマー同士の混合は通常のCTで可視化できず、樹脂埋め・研磨等を経て、SPM、ラマン分光等の装置で観察するしかなかった。そこで、位相CTを用いた微小密度差ポリマー混合物の3次元分布の可視化を試みる。	
	研究の目標	複数の種類のポリマーを混合・複合化した材料について、あいちシンクロトロン光センターBL8S2で実験できる2種類の位相CTを用いて、3次元分布の可視化を行う。両手法の特徴や相違点を明らかにするとともに、複合ポリマー材料の３次元構造を取得するための条件を明確にする。	
	備考	［県］シンクロトロン光利用案件組成研究開発活動費	

シンクロトロン光利用案件組成研究（1/1） CNF分散銅抗菌剤の化学状態分析（1/1）			No. 2
研究機関／担当者		本部（技術支援部） 産業技術センター	福岡 修、杉山 信之 森川 豊、伊藤 雅子
研究の概要	研究の内容	抗菌剤として用いられる銅粒子の水系溶液は、セルロースナノファイバー（CNF）を添加することによって分散化と色の変化が確認されており、さらに綿製品へ付与されたときに抗菌活性の耐久性向上が達成されている。本研究では、CNFを添加することによる銅の化学状態の変化を調査するため、シンクロトロン光を用いたXAFSやTOF-SIMS、XPSなどの測定手法を用いて分析を行う。	
	研究の目標	CNFを添加したときの銅の化学状態の変化について調査し、銅の各種化学状態と抗菌性能の対応関係について明らかにする。本研究を通して抗菌性能の発現要因についての理解を深め、さらなる性能向上につなげることを目標とする。	
	備考	［県］シンクロトロン光利用案件組成研究開発活動費	

釉薬テストピース及び釉薬データベースの活用（8/8） 釉薬データベースを活用した失透釉の開発（1/1）			No. 3
研究機関／担当者		瀬戸窯業試験場	光松 正人、成瀬 未来
研究の概要	研究の内容	産総研より利用許諾を受けたデータベース拡充作業の継続及びこれらを活用した技術支援の展開と、研究課題の発掘、具体化を図る。近年、瀬戸地域の陶磁器製飲食器市場では、透明釉とは異なる質感と色味を持つ製品の引き合いが増えているため、本年度は、釉薬データベースを活用し、失透釉ならではの色調・質感等について検討すると共に、これらの釉薬を用いて試作を行い、現在の市場ニーズに合わせた提案に繋げる。	
	研究の目標	釉薬データベースの拡充として、釉薬テストピースデータ約2,500件、台紙データ約1,000件の入力を行う。また、飲食器に施釉することを前提とする失透釉について、釉薬データベースを活用して効果的な調合を探索し、テストピースを用いた焼成試験及び新たな提案に向けた試作を行う。	
	備考	［県］あいち産業科学技術総合センター管理運営事業費	

カーボンニュートラルに貢献するトポロジー最適化構造を組込んだ高機能切削工具用ツールホルダの開発（3/3） カーボンニュートラルに貢献するトポロジー最適化構造を組込んだ高機能切削工具用ツールホルダの開発（3/3）			No. 4
研究機関／担当者		瀬戸窯業試験場 三河繊維技術センター 本部（技術支援部）	高橋 直哉 加藤 正樹 梅田 隼史
研究の概要	研究の内容	地域産学行政連携により、金属積層造形技術及び CAE 技術を活用して、最適な冷却構造を内蔵し軽量かつ十分な剛性等を有する新規な金属切削加工用ツールホルダを開発する。材料粉末の検討、造形に適したデータ配置の検討、被加工物の表面状態や工具の消耗状態の評価を行い、被加工物の高品質化、加工の低コスト化、環境性能の向上等に繋げる。	
	研究の目標	試作したツールホルダを用いて切削加工した被加工物について、表面状態等の観察・評価を行う。また、切削加工試験後の試作ツールホルダ及び工具の消耗状態等の観察を行い、実プロセスにおける被加工物の表面状態、工具の消耗状態等の評価を行う。	
	備考	［経済産業省］成長型中小企業等研究開発支援事業（Go-Tech）	

オープンソースソフトウェアを用いたロボットシステムの構築（2/2） ROS を用いた搬送ロボットシステムの構築（1/1）			No. 5
研究機関／担当者		産業技術センター	平出 貴大、木村 宏樹、宮本 晃吉、依田 康宏
研究の概要	研究の内容	オープンソースで豊富なツールやライブラリを持つロボット用のソフトウェアフレームワーク「ROS（Robot Operating System）」を用いた汎用的な方法により、小型移動ロボットとその周辺機器を制御する搬送ロボットシステムを構築する。ロボットの活用に関する技術相談・指導での利用を見据え、生産現場における搬送工程と作業工程が連携した自動化を模擬したシステムとすることを目指す。	
	研究の目標	・生産現場における搬送工程と作業工程の連携を模擬したロボットシステムの構築 ・構築したシステムの例示によるロボット活用に関する技術支援	
	備考	［県］あいち産業科学技術総合センター管理運営事業費	

白金の超強度化技術による大型モビリティ搭載用固体高分子形燃料電池電極触媒の開発(3/3) 白金の超強度化技術による大型モビリティ搭載用固体高分子形燃料電池電極触媒の開発(3/3)			No. 6
研究機関／担当者		産業技術センター	犬飼 直樹、鈴木 正史
研究の概要	研究の内容	固体高分子形燃料電池を搭載した大型・商用モビリティの開発には、広作動域（高温、高負荷変動、高電位、強酸性環境等）で高い耐久性を示す白金系電極触媒の開発が不可欠である。本研究では、耐酸性・耐酸化性・耐熱性・高電子受容能を有するポリオキソタングステートに着目し、その骨格構造に構造化白金を精密導入した新化合物について、固体高分子形燃料電池用電極触媒への応用を検討する。	
	研究の目標	さまざまな条件で調製したポリオキソタングステート白金導入化合物とプロトン導電性樹脂を混合して、固体高分子形燃料電池用電極を作製する。この電極の燃料電池発電特性を評価し、高耐久性と高質量活性を有するポリオキソタングステート白金導入化合物の調製条件および電極の作製条件を模索する。	
	備考	［(国研）科学技術振興機構（JST)］研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP）産学共同（育成型）	

燃料電池セルの搬送・積層を超高速化する基本機構の研究開発（2/2） 燃料電池セルの搬送・積層を超高速化する基本機構の研究開発（2/2）			No. 7
研究機関／担当者		産業技術センター	鈴木 正史、山口 梨斉、阿部 祥忠
研究の概要	研究の内容	水素社会の実現のためには、燃料電池の普及・拡大が必要である。現在、燃料電池スタック生産プロセスにおいて、積層工程の高速化が大きな課題の一つとなっている。そこで本研究では、任意の燃料電池セルを用いて非接触で高速搬送し、かつ積層可能な装置開発を行う。また、リークテストを行い、ガスリーク量を評価する。	
	研究の目標	搬送速度15m/分、タクトタイム2秒で連続して積層可能な装置を開発する。また、本装置によって積層された燃料電池スタックを用いてリークテストを行い、燃料電池セル枚数、プレス圧およびガス圧の違いによるガスリーク量を測定し、相関性を明らかにする。	
	備考	［(国研）新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO)］新エネルギー等のシーズ発掘・事業化に向けた技術研究開発事業「社会課題解決枠フェーズB（基盤研究開発)」	

水素工業炉の利用に関する研究（1/1） 陶磁器焼成後の表面色についての調査（1/1）			No. 8
研究機関／担当者		常滑窯業試験場 三河窯業試験場 瀬戸窯業試験場	立木 翔治 榊原 一彦 長谷川 恵子、長田 貢一
研究の概要	研究の内容	脱炭素社会実現に向けて、多量に二酸化炭素を発生する陶磁器の焼成工程に着目し、燃焼時に二酸化炭素が発生しない水素ガスを燃料に用いた工業炉での焼成試験を行い、従来技術による焼成品と比較する。常滑、三河、瀬戸地域での特色のある陶磁器製品に相当する成形試験体を用いて、燃料に水素ガスを使用して焼成した場合とブタン/プロパン混合ガスを使用した場合の焼成試験体の表面色の差異を評価する。	
	研究の目標	最高焼成温度は1100～1150℃を目安とする。水素ガス燃焼時はブタン/プロパンガス燃焼時に比べて、窯内に高温水蒸気が多量に生成するなどの特徴があることから、表面色に及ぼす影響を定量・定性的に把握することを目標とする。また、収縮率や機械的強度についても従来品と比較・検討する。	
	備考	［県］あいち産業科学技術総合センター管理運営事業費	

溜醤油醸造用乳酸菌スターターセットの開発（3/3） 溜醤油醸造用乳酸菌スターターセットの拡充（1/1）			No. 9
研究機関／担当者		食品工業技術センター	近藤 聡子、間野 博信、小野 奈津子
研究の概要	研究の内容	近年、醤油醸造では優れた醸造特性を有する耐塩性乳酸菌 *Tetragenococcus halophilus* をスターター（種菌）として諸味に添加することで、醤油品質の向上を図る取り組みが行われている。しかし、同じ菌株を使用し続けると工場にバクテリオファージが発生し、発酵不全が生じてしまう。そこで、バクテリオファージへの感受性が異なる菌株を複数用意し、ローテーションで使用することで、安定的な品質向上を実現する。	
	研究の目標	以下の性質を有する *T. halophilus* を9株以上取得する。①アミンを生成しない②シトルリンを生成しない③アミンをEUの推奨値である200ppm以下に低減できる④pHの過度な低下を招かない⑤窒素分の大きな減少を招かない⑥ファージ感受性が異なる。	
	備考	［県］あいち産業科学技術総合センター管理運営事業費	

女性の不調を未病段階で検査し健康改善プランをレコメンドする検査サービスの開発（3/3） 女性の不調を未病段階で検査し健康改善プランをレコメンドする検査サービスの開発（3/3）			No.10
研究機関／担当者		食品工業技術センター	溝口 温子、半谷 朗
研究の概要	研究の内容	女性は年齢に応じて女性ホルモンの分泌量が変化することで、生涯を通じて様々な健康課題を抱えている。本研究では、ライフステージごとの女性の不調に対する網羅的な未病検査サービスの開発を目的とし、モニター試験で回収された尿検体の代謝物の分析を行う。また、分析結果と質問紙の機械学習により、未病の指標となるマーカー物質の解析を行う。	
	研究の目標	尿中代謝物の分析及びユーザー情報が蓄積されたデータベースを用いた機械学習により、被験者の健康課題の抽出を行う。また、抽出された健康課題を基に、ユーザーにとって最適な健康レコメンドを行う検査サービスを開発することを目標としている。	
	備考	［経済産業省］成長型中小企業等研究開発支援事業（Go-Tech）	

発電機能を有するテキスタイルの開発（1/2） 発電機能を有するテキスタイルの製造技術に関する研究（1/1）			No.11
研究機関／担当者		尾張繊維技術センター	田中 利幸、池口 達治、石川 茜、松浦 勇
研究の概要	研究の内容	IoT やウェアラブルデバイスの普及に伴い、これらのセンサデバイスへの簡易な電源供給が求められている。摩擦帯電型ナノ発電（TENG）は摩擦によって生じる静電気から発電する技術であり、日常の動作によって生じる摩擦からデバイス等の電源を取り出すことが可能となる。本研究では製織・製編技術を活用し、TENG の機能を持ったテキスタイルを開発する。	
	研究の目標	テキスタイルに TENG の機能を持たせるため、導電層を絶縁層を組み合わせた多層構造のテキスタイルを製造する。絶縁糸及び導電糸の素材や織・編の組織と発電機能の相関性を検証し、TENG として最適なテキスタイル構成を見出すことを目標とする。	
	備考	［県］あいち産業科学技術総合センター管理運営事業費	

画像生成 AI を用いた繊維製品における異常画像の作成(1/1) 画像生成 AI を用いた繊維製品における異常画像の作成(1/1)			No.12
研究機関／担当者		尾張繊維技術センター	市毛 将司
研究の概要	研究の内容	製品検査 AI の学習時に必要になるキズ画像を、生成ネットワークにより作成する。潜在空間を利用して適切な変換を行うことで、既に取得済みのキズ画像から抽出した特徴量を新たな柄や織り方の正常画像の特徴量に埋め込み、新規試料でのキズ画像を生成させる。	
	研究の目標	正常織物画像のみから学習されたスタイル空間からキズ画像を生成させる。このために、スタイル空間の次元選択と分離の最適化を行う。またキズ特徴のミキシング手法を確立する。	
	備考	（公財）中部科学技術センター 人工知能研究助成	

環境に配慮した電界紡糸法の検討（1/3） 紫外線硬化樹脂を用いたナノファイバーの作製検討（1/1）			No.13
研究機関／担当者		三河繊維技術センター	村瀬 晴紀、松田 喜樹
研究の概要	研究の内容	電界紡糸法は、電池材料などへの活用が期待できるナノファイバーを比較的容易に作製できる技術であるが、人体や環境への配慮が課題であると考えている。そこで、安全性と生産性の向上を目的として、紫外線硬化樹脂を用いた電界紡糸法を検討する。紫外線硬化樹脂に対応した装置の改良、機器分析による樹脂の特性の把握、種類と紫外線の波長の組み合わせ、光量・照射方法、電界紡糸の各条件などの検討を行う。	
	研究の目標	紫外線硬化樹脂を用いた電界紡糸法による紡糸技術を確立する。 繊維の目標値は繊維径1μm以下を目指す。	
	備考	［県］あいち産業科学技術総合センター管理運営事業費	

（２）経常研究

【A8】

＜経常研究一覧　（各産業分野の技術支援のため、当面する課題に取り組む研究）＞

No	研究テーマ	研究機関
1	CFRTP 射出成形品の寸法・表面品質に及ぼす成形条件の影響	本部(技術支援部) 産業技術センター 三河繊維技術センター
2	ソフトマテリアルの 3 次元化学構造評価	本部(技術支援部)
3	照明器具に関するエミッション試験方法の検証	本部(技術支援部)
4	窯業系廃棄物を利用した窒化物の合成	瀬戸窯業試験場
5	瀬戸地域窯業における新たな製造プロセスの研究	瀬戸窯業試験場
6	カーボンナノファイバーを利用したレドックスキャパシタの開発	産業技術センター 三河繊維技術センター
7	マグネシウム合金の分析方法の検討	産業技術センター
8	生分解性プラスチックの活用技術に関する研究	産業技術センター
9	金属加工における AI 活用に関する研究	産業技術センター
10	表面改質によるアルミダイカストの機能性向上に関する研究	産業技術センター
11	地域における資源作物の高度利用に関する研究	産業技術センター
12	パルプモールドの新規処理法の開発	産業技術センター
13	木材の振動特性の解析・制御	産業技術センター
14	摩擦撹拌接合を用いた異種金属の突合せ接合条件の検討	産業技術センター
15	難加工材料の加工状態のモニタリングに関する研究	産業技術センター
16	車載 EMC 試験の対応に向けた調査研究	産業技術センター
17	水素熱処理炉の基本特性の調査	常滑窯業試験場 産業技術センター 三河繊維技術センター
18	瓦用原料の調査研究	三河窯業試験場
19	純米系清酒の熟成過程における成分変化の検証	食品工業技術センター 本部（技術支援部）
20	蛍光指紋法による揚げ油の品質評価法の検討	食品工業技術センター
21	セルロース加工品の和菓子利用に向けた特性評価	食品工業技術センター 産業技術センター
22	魚醤の旨味評価に関する研究	食品工業技術センター
23	光による繊維製品の変退色挙動	尾張繊維技術センター
24	繊維製品の欠陥検出 AI の精度向上及び推論機構の軽量化に関する研究	尾張繊維技術センター
25	環境負荷低減に向けた染色加工におけるファインバブルの応用	三河繊維技術センター
26	ポリメチルペンテンを鞘に用いた芯鞘構造糸の開発	三河繊維技術センター
27	高速引張試験機を使用した衝撃特性評価	三河繊維技術センター

CFRTP 射出成形品の寸法・表面品質に及ぼす成形条件の影響（1/2） CFRTP 射出成形品の寸法・表面品質に及ぼす成形条件の影響（1/2）		No. 1
研究機関／担当者	本部（技術支援部） 三河繊維技術センター 産業技術センター	吉田 陽子、杉本 貴紀 渡邉 竜也 島津 達哉
研究の概要	CFRTP の射出成形は、アスペクト比の大きい繊維の含有により面内・板厚方向で異方性が生じ、成形品に反りが発生する場合や、繊維の表出により表面の光沢がなくなるなど、繊維の存在が寸法・表面品質に影響を及ぼすことがある。これら成形不良は、各工程の条件調整により改善する場合もあるが、寸法品質と表面品質を両立させることが難しい。そこで本研究では、成形条件と寸法・表面品質の関係を調べることを目的とする。	

ソフトマテリアルの 3 次元化学構造評価（1/1） ソフトマテリアルの 3 次元化学構造評価（1/1）		No. 2
研究機関／担当者	本部（技術支援部）	加藤 裕和、内田 貴光
研究の概要	プラスチック、ゴム、コーティングといったソフトマテリアルは、特定の機能を付与するために添加される成分の分散状態や層構造を nm～μm オーダーで制御されている。しかし、添加成分がどのような化学構造でどのように分布しているか把握する手法がいまだ普及していない。本研究では、TOF-SIMS によるスパッタイオン銃を用いた深さ方向分析により、ソフトマテリアルの 3 次元化学構造評価手法を確立することを目指す。	

照明器具に関するエミッション試験方法の検証（2/2） 照明器具の低周波帯域におけるエミッション試験方法の検証（1/1）		No. 3
研究機関／担当者	本部（技術支援部）	杉山 儀、浅井 徹
研究の概要	近年、LED 照明の普及とともに、国内外の照明器具の試験規格の大きな改正が行われた。それに伴い EMC 試験の複数の測定法が導入され、照明器具の EMC 試験の需要は一層高まっている。本研究では、照明器具の EMC 試験の複数の測定法の中から、特に低周波範囲のエミッション測定法に着目して、各種測定法の相互関係を明らかにしていく。	

窯業系廃棄物を利用した窒化物の合成（1/1） 窯業系廃棄物を利用した窒化物の合成（1/1）		No. 4
研究機関／担当者	瀬戸窯業試験場	高橋 直哉、成瀬 未来
研究の概要	近年、製造業において SDGs への貢献は大きな課題となっており、各企業は製造工程で出る廃棄物の活用法を模索している。また窯業分野においては、非酸化物セラミックスの需要は今後高まっていくと考えられる。本研究では、製造工程で生ずる不良品の粉砕品や珪砂精製に伴って生じるキラ粘土を、黒鉛等の炭素と混合し、窒素雰囲気下で高温焼成することにより、還元窒化によるケイ素やアルミニウムの窒化物の合成を試みる。	

瀬戸地域窯業における新たな製造プロセスの研究（1/1） 瀬戸地域窯業における新たな製造プロセスの研究（1/1）		No. 5
研究機関／担当者	瀬戸窯業試験場	光松 正人、高橋 直哉、成瀬 未来
研究の概要	近年、瀬戸地域の窯業界では、資源の枯渇や環境保全意識の高まりに伴い、坏土の基礎的特性の再評価やグリーン製造プロセスの導入が強く求められている。本研究では、現在入手可能な窯業原料について、化学的特性、熱的特性、結晶性等の評価を行い、地場の陶磁器製造に利用可能な原料の選定を行う。また、これらの原料を用いた成形体の試作及び水素ガス燃焼による焼成を行い、成形性、機械的特性、呈色等の評価等を行う。	

カーボンナノファイバーを利用したレドックスキャパシタの開発（3/3） カーボンナノファイバーを利用したレドックスキャパシタの開発（1/1）		No. 6
研究機関／担当者	産業技術センター 三河繊維技術センター	犬飼 直樹、不破 洸喜、鈴木 正史 松田 喜樹、村瀬 晴紀
研究の概要	電気化学キャパシタは、高出力・長寿命といった特徴があり、さまざまな製品に使用されているが、エネルギー密度が低いという課題がある。本研究では、これまでに開発したレドックスキャパシタの正負極材料を組み合わせてフルセルを試作する。試作セルの充放電特性評価等を行って課題を抽出し、レドックス化合物やカーボンナノファイバーの改良を実施することにより、エネルギー密度の向上を図る。	

マグネシウム合金の分析方法の検討（1/2） マグネシウム合金中けい素の分析方法の検討（1/1）		No. 7
研究機関／担当者	産業技術センター	青井 昌子、山口 梨斉、村井 崇章
研究の概要	自動車軽量化に欠かせない構造用金属材料であるマグネシウム合金は、添加元素の定量分析方法に未整備な部分がある。添加元素のうち、けい素は耐クリープ性向上に必要な元素であるが、けい素量が0.6%より多い場合、日本産業規格において定量分析方法が規定されていない。そこで本研究では、けい素の定量分析方法に二酸化けい素重量法の適用を検討し、再現性良く精度の高い分析方法の開発を目指す。	

生分解性プラスチックの活用技術に関する研究（2/2） 生分解性プラスチック-古紙複合材の耐久性評価（1/1）		No. 8
研究機関／担当者	産業技術センター	伊藤 誠晃、岡田 光了、山田 圭二、高橋 勤子
研究の概要	PBS 系生分解性プラスチックと古紙を複合化させた材料について、耐久性評価を行う。前年度の研究において複合化できることが確認できたため、複合化した材料についてセンター内の土壌を用いた生分解性試験とサンシャインウェザーメータによる促進耐候性試験により耐久性を評価し、生分解性プラスチックの古紙複合化による耐久性への影響を調査する。	

金属加工における AI 活用に関する研究（1/2） 加工油製造における機械学習の活用検討（1/1）		No. 9
研究機関／担当者	産業技術センター	藤波 駿一朗、津本 宏樹、廣澤 考司、深谷 憲男、永縄 勇人
研究の概要	金属加工の分野では、切削や塑性加工の際に目的に応じた性能の加工油を使用している。加工油はベース油と添加剤の配合により製造されるが、試作や物性評価の繰り返しによるコストや工数の増大が課題となっている。また、近年製造業への AI 導入が生産性向上やコスト削減等につながるとして注目されている。本研究では、機械学習を用いて加工油製造前後の物性の関係を構築し、加工油の物性予測を試みる。	

表面改質によるアルミダイカストの機能性向上に関する研究（2/2） 陽極酸化処理条件がアルミダイカストの光学的特性に及ぼす影響（1/1）		No. 10
研究機関／担当者	産業技術センター	鵜飼 万里那、山下 勝也、森田 晃一、鷲見 茜音
研究の概要	アルミニウム材の中でも生産性が高く、優れた機械的特性を有するアルミダイカスト（ADC12）は自動車のエンジン部品等に多く利用されている。しかし、ADC12 はシリコンを含んでおり陽極酸化処理が困難であるため、本研究ではショットピーニング技術を用いて、課題の解決を図る。令和 6 年度で確立した陽極酸化方法を用い、今年度は光学的観点から皮膜の性能を調べる。	

地域における資源作物の高度利用に関する研究（2/2） 資源作物を利用したゲルの高機能化に関する検討（1/1）		No. 11
研究機関／担当者	産業技術センター	伊藤 雅子、北尾 圭伍
研究の概要	国内で栽培されている資源作物を高機能マテリアル（セルロースナノファイバー、CNF）へ利用し、CNF の保形性・保水性に優れる性質を利用したゲル化剤またはゲル物性を改善する材料や高保水材としての利用について検討する。原料のナノ加工によりゲル強度を上げることで、保水性とゲル強度の高い新規な生分解性ゲルの製造方法を構築する。発生地域の農業用に用いるため、保水性、強度および生分解性を評価検討する。	

パルプモールドの新規処理法の開発（1/3） 難燃剤の事前処理による歩留の向上（1/1）		No. 12
研究機関／担当者	産業技術センター	村松 圭介、飯田 恭平、林 直宏
研究の概要	パルプモールドは防炎パッケージや自動車・建築物の内装材として利用する際に防炎性が必要とされる。パルプモールドの防炎処理法として難燃剤と定着剤を原料のパルプスラリーに加える方法を過去に開発したが、難燃剤の定着率（歩留）が低いという課題があった。本研究では、難燃剤を事前に化学処理してパルプと絡みやすい形態にしてから添加することで歩留の向上を図る。	

木材の振動特性の解析・制御（1/2） レーザインサイジングが木材の音響特性に及ぼす影響の解析（1/1）		No. 13
研究機関／担当者	産業技術センター	水野 優、野村 昌樹、古川 貴崇
研究の概要	木材の用途には楽器や音響機器、建築材料など、音響特性が求められるものが多くあり、用途に応じて様々な種類の木材が使い分けられている。本研究では、UV レーザによる木材のインサイジング加工が木材の音響特性に及ぼす影響を明らかにし、インサイジング条件を適切に設定することで木材の音響特性を調整する手法について検討する。	

摩擦撹拌接合を用いた異種金属の突合せ接合条件の検討（1/1） 摩擦撹拌接合を用いた異種金属の突合せ接合条件の検討（1/1）		No. 14
研究機関／担当者	産業技術センター	加藤 良典、河田 圭一、児玉 英也
研究の概要	安価な板材に対して溶接断面積が大きな摩擦撹拌接合(FSW)による重合せ及び突合せ接合と切削仕上げを繰り返す新しい積層造形方法の適用対象を広げるため、アルミ合金と銅合金（または銅）を対象とした異種金属接合材料の突合せ接合条件について調査する。本研究では、加工力や接合温度などを計測することにより、FSW ツールの回転数や送り速度が接合状態（金属組織、空隙など）に及ぼす影響について明らかにする。	

難加工材料の加工状態のモニタリングに関する研究（1/1） 難加工材料の加工状態のモニタリングに関する研究（1/1）		No. 15
研究機関／担当者	産業技術センター	児玉 英也、河田 圭一、加藤 良典
研究の概要	難加工材料の切削加工は、適切な切削条件の選定や高機能な切削工具の使用、切削油の種類・給油方法の見直しなどを行うとともに、加工状態をリアルタイムに監視して、工具や被削材の異常を早期に検知する技術が必要である。本研究では、加速度センサから得られる加工中の加速度データを解析することにより、工具の摩耗状態の評価が可能であるか検討する。	

車載 EMC 試験の対応に向けた調査研究（2/2） 車載機器におけるイミュニティ試験の検討（1/1）		No. 16
研究機関／担当者	産業技術センター	水野 大貴、平出 貴大、宮本 晃吉、依田 康宏
研究の概要	現在の自動車は多様な無線デバイスの搭載により、電装品同士の電磁干渉が起こりやすい環境であるため、車載電装品の EMC は民生機器に比べて非常に厳しく規制されている。本研究では、当センターの現有機器・設備（簡易電波暗室）を用いて車載電装品に対する EMC 試験規格の一部を再現し、基本試験を行う。今年度は、イミュニティ試験について評価を行い、現有機器等での車載 EMC 試験への対応可否（範囲）を検証する。	

水素熱処理炉の基本特性の調査（1/1） 水素熱処理炉の基本特性の調査（1/1）		No. 17
研究機関／担当者	常滑窯業試験場 産業技術センター 三河繊維技術センター	山口 敏弘、野澤 宗邦 永縄 勇人 小林 弘明
研究の概要	水素熱処理炉での熱処理では、炉内の水素雰囲気化や水素燃焼に伴う水蒸気発生が推測される。水素雰囲気化は金属の水素脆化を引き起こす可能性があり、金属熱処理への影響が懸念される。また、水蒸気の発生はその活用法への関心が高い。本研究では、水素熱処理炉で鋼材の熱処理やアルミニウム材の表面処理を行い、それらの物性評価等から、水素雰囲気や水蒸気の発生といった水素熱処理炉の基本特性を明らかにする。	

瓦用原料の調査研究（2/3） 山土の基礎性状（1/1）		No. 18
研究機関／担当者	三河窯業試験場	今井 敏博、深澤 正芳、榊原 一彦
研究の概要	粘土瓦の品質の安定化につなげるため、粘土瓦の主要原料である三河粘土、山土及び砂利排土の調査研究を実施する。令和7年度は山土を対象とし、化学組成、鉱物組成、粒度分布、可塑性について調べる。また、練土試料を作製し、乾燥性状及び焼成性状を把握する。過去調査した山土の基礎性状との比較により化学組成等の変化を明らかにするとともに、業界へ情報提供し、製造条件の改善につなげる。	

純米系清酒の熟成過程における成分変化の検証（1/2） 純米系清酒の熟成過程における揮発性物質の経時変化（1/1）		No. 19
研究機関／担当者	食品業技術センター 本部（技術支援部）	家田 明音、三井 俊 船越 吾郎、舟橋 里帆
研究の概要	近年芳醇な味わいの「熟成酒」の価値が見直されており、愛知県内でもトンネルやダム、海底などで熟成させた清酒の製品企画が進んでいる。本研究では、熟成空間や温度、期間が異なる純米系清酒の熟成過程における香味成分の経時変化を高度計測機器（HS-GC,GC/MS）を活用してデータを収集し、メタボローム解析により純米系熟成酒の酒質の可視化することで官能評価との関連性を見出す。	

蛍光指紋法による揚げ油の品質評価法の検討（1/1） 蛍光指紋法による揚げ油の品質評価法の検討（1/1）		No. 20
研究機関／担当者	食品工業技術センター	石原 那美、吹上 瑞季、山田 圭
研究の概要	近年、蛍光指紋法を活用した食品の品質評価が注目されている。これまでの研究で、蛍光指紋法を用いることで、簡便になたね油の劣化指標値（酸価（AV）、過酸化物価（POV）、カルボニル価（CV）、極性化合物（PC））を同時に推定できる可能性を見出した。そこで、本研究では菓子製造に用いられている揚げ油を対象とし、蛍光指紋法を活用した揚げ油の品質評価法を検討する。	

セルロース加工品の和菓子利用に向けた特性評価（1/1） セルロース加工品の和菓子利用に向けた特性評価（1/1）		No. 21
研究機関／担当者	食品工業技術センター 産業技術センター	鈴木 萌夏、矢野 未右紀、井原 絵梨子 伊藤 雅子、北尾 圭伍
研究の概要	近年、植物由来のセルロースを微細加工する技術が開発され、優れた分散性、保形性及び保水性があり、多糖類の中ではカロリーが低い新規な添加物として注目されている。本研究では、増粘剤、安定剤などとして加工デンプンなど多糖類の添加物が使用されることの多い和菓子に対して、原料の分散性や保存後の物性評価などを通して、セルロース加工品の最適な加工・添加条件を構築する。	

魚醤の旨味評価に関する研究（1/1） 魚醤の旨味評価に関する研究（1/1）		No. 22
研究機関／担当者	食品工業技術センター	丹羽 昭夫、溝口 温子、宮田 秀雄
研究の概要	魚醤は魚体のたんぱく質が分解してできたアミノ酸などにより強い旨味を有する。旨味は主にグルタミン酸などのアミノ酸にあるが、単純にこれらが多ければ旨味を強く感じるわけではなく、組み合わせによる相乗効果などがある。さらに香気や他の味覚の影響もあり複雑である。そこで各成分がどの程度旨味に寄与しているかを評価し、成分値より旨味を予測できるようにする。	

光による繊維製品の変退色挙動（1/1） LED 光源による繊維の変退色挙動（1/1）		No. 23
研究機関／担当者	尾張繊維技術センター	浅野 春香、廣瀬 繁樹、木村 和幸、伊東 寛明、市毛 将司、後藤 拓海
研究の概要	白色 LED は、紫外光がほとんど含まれないため、光による劣化は引き起こさないと考えられていたが、実際には、LED 暴露による退色が認められる事案が発生している。事象の確認および対応策を検討し、地元繊維業界に情報提供することは緊急な課題である。本研究では、白色 LED ランプを光源とし、照射条件の違いによる退色の影響を明らかにする。取得したデータを基に統計的手法により、退色の影響を解析する。	

繊維製品の欠陥検出 AI の精度向上及び推論機構の軽量化に関する研究（1/3） 欠陥画像の生成による AI の精度向上に関する研究（1/1）		No. 24
研究機関／担当者	尾張繊維技術センター	市毛 将司、後藤 拓海、棚橋 伸仁、河瀬 賢一郎、伊東 寛明
研究の概要	知の拠点あいち重点研究プロジェクト（Ⅳ期）で開発した AI を用いた検反モデルは、高精度だが実行にマシンパワーを要する点が普及の大きな課題のひとつである。本研究では、メモリ容量や演算能力が限られるミドルスペック PC でも高精度で高速な推論が可能となるようモデルの軽量化を行う。軽量化手法として今年度は枝刈りを検討する。	

環境負荷低減に向けた染色加工におけるファインバブルの応用（1/2） ウルトラファインバブルによるポリエステル染色技術の開発（1/1）		No. 25
研究機関／担当者	三河繊維技術センター	村井 美保、平石 直子
研究の概要	環境負荷を低減するための染色技術として、超臨界染色、電子線照射・低温プラズマの利用など様々な研究開発が行われているが、高価な新規設備の必要性や繊維の脆化等の課題があり、一部実用化されるに留まっている。そこで本研究では、繊維の染色加工工程におけるファインンバブルの有効性について検討し、環境負荷を低減する新規染色加工技術の確立を目指す。	

ポリメチルペンテンを鞘に用いた芯鞘構造糸の開発（1/2） ポリプロピレン-ポリメチルペンテン芯鞘構造糸の紡糸技術の開発（1/1）		No. 26
研究機関／担当者	三河繊維技術センター	小林 孝行、三輪 幸弘、藤井 彩月
研究の概要	水産業界や建築業界で用いられる網、ロープ等では、水生生物や粉じん由来の汚染により、機能の低下が引き起こされる。また、近年では、網、ロープ等の易リサイクル性が強く求められているが、強固かつ大量に付着した汚染物は、易リサイクル性の妨げとなっている。そこで、防汚性に優れ、易洗浄性能を有する漁網、産業資材向けマルチフィラメントの開発を目指す。	

高速引張試験機を使用した衝撃特性評価（1/2） 高速引張試験における試験片形状の最適化（1/1）		No. 27
研究機関／担当者	三河繊維技術センター	渡邉 竜也、中西 裕紀、小林 弘明、原田 真
研究の概要	高速引張試験機による衝撃特性の評価の需要が高まっているが、静的な引張試験に比べて試験片のサイズを小さくする必要があり、チャック抜け、チャック内破断等の測定上のトラブルが多く発生し、試験片の作製が試験実施の１つのハードルとなっている。そこで本研究では、材料に応じた最適な試験片形状、さらには材料に依らず最適な試験片の形状を検討することで、課題解決を目指す。	

（３）企業の提案による共同研究

企業等が共同研究開発テーマを当センターに提案し、採択したテーマについて共同研究を実施す　【A9】

企業単独では解決できない技術的課題を当センターが蓄積した技術的ノウハウを提供することにより解決する。

（４）新たな知的財産の創出、特許や技術の利活用　【A13】

新たな知財を創出するとともに、保有する特許や開発した技術の利活用を図る。

３．技術指導の充実

（１）重点研究プロジェクト成果活用プラザの設置と運用　【A5】

重点研究プロジェクト成果活用プラザを設置し、事業終了後における重点プロジェクト参加企業の事業化支援と研究成果の地域企業への技術移転を図る。

（２）高度な計測分析機器（シンクロトロン光含む）の活用　【A6】

① 高度計測分析機器の活用

高度計測分析機器を活用した先端技術に関する研究（利用促進研究）を実施し、県内企業等への高度計測分析機器の利用を図る。※研究の概要は、経常研究（No.1～No.3）をご覧ください。

② 高度計測機器とシンクロトロン光の相互有効活用の実施

高度計測分析機器とシンクロトロン光の相互利用研究を実施して活用事例を公表していく。

※研究の概要は、特別課題研究（No.1、No.2）をご覧ください。

※シンクロトロン光計測の活用

県内中小企業が共通して抱える技術課題に関するテーマを設け、あいちシンクロトロン光センターを活用して評価・分析を行う。得られた結果は新たな評価方法として県内中小企業に示し、技術課題の解決に向けて指導する。

（３）トライアルコアの運用　【A5】

各トライアルコア等の目的に沿う開発に取り組む地域中小企業に対し、試作品の特性評価、技術相談・指導、情報提供、材料研究など、総合的な支援を行う。

※トライアルコアについて

次世代産業を支える柱として大きな発展が期待される燃料電池やプラズマを応用した表面改質などの開発に取り組む中小企業に対し、試作品の特性評価、技術相談・指導、情報提供を行う。さらに材料研究の支援拠点に加え産業デザインなど総合的な支援を行う。

① 燃料電池技術の支援（燃料電池トライアルコア）

新エネルギーとして期待が大きい燃料電池の開発支援拠点として開設した「燃料電池トライアルコア」の燃料電池評価システム装置を用いて、中小企業等が燃料電池向けに試作した部品や素材の特性評価や技術指導等を行うことにより、中小企業の優れた技術を発掘し次世代産業を育成する。

② 表面改質技術の支援（材料表面改質トライアルコア）

比表面積計などを用いた表面改質に関する研究開発、試作、試作品の分析評価を行う開発支援拠点として開設した「材料表面改質トライアルコア」で、自動車・工作機械や航空機産業を支える中小企業等に、技術指導等を通じてナノテクノロジーを応用したモノづくり支援を行う。

③ 産業デザインの支援（産業デザイントライアルコア）

従来から行ってきた産業デザイン相談に加え、レーザー粉末焼結造形装置、３次元プリンター、モデリング装置、CAD/CAM 装置により、産業デザインを意識したモノづくり支援を行う。

④ 繊維強化複合材料開発の支援（繊維強化複合材料トライアルコア）

繊維強化複合材料開発に取り組む地域中小企業に対し、技術相談・指導、情報提供、試作・評価支援などにより総合的なモノづくり支援を行う。

⑤ 脱炭素燃料工業炉を活用した研究開発の支援（脱炭素燃料工業炉トライアルコア）

脱炭素燃料に興味がある中小企業に対して、水素ガスを燃料としたバーナーを備える工業炉を用いた焼成試験、焼成品の評価試験を実施し、技術相談・指導、情報提供などにより総合的なモノづくり支援を行う。

（４）産業空洞化対策減税基金（「減税基金」）による支援 【A13】

減税基金を原資とする「新あいち創造研究開発補助金」により、今後の成長が期待される分野において、企業等が行う研究開発や実証試験への支援を行う。

（５）技術課題解決のための所内及び現場での技術相談・指導の実施 【A13】

技術相談・指導の実施

中小企業における、工程の改善、加工技術の向上、製品の品質管理、生産管理技術の向上などを図るため、技術相談・指導を実施する。

（単位：件）

機 関 名	技術指導				技術相談	
	現場指導		所内指導		令和７年度計画	令和６年度計画
	令和７年度計画	令和６年度計画	令和７年度計画	令和６年度計画		
技術支援部	90	90	750(120)	750(120)	2,070	2,070
瀬戸窯業試験場	240	240	650(60)	650(60)	1,040	1,040
産業技術センター	560	560	5,920(140)	5,920(140)	10,180	10,180
常滑窯業試験場	110	110	350(30)	350(30)	630	630
三河窯業試験場	110	110	350(30)	350(30)	630	630
食品工業技術センター	420	420	2,580(90)	2,580(90)	3,350	3,350
尾張繊維技術センター	230	230	1,450(70)	1,450(70)	3,600	3,600
三河繊維技術センター	240	240	950(60)	950(60)	3,500	3,500
計	2,000	2,000	13,000(600)	13,000(600)	25,000	25,000

※所内指導の（ ）内の数字は、オンライン技術指導の計画件数で所内指導の内数。

※産業技術センターに設置している「総合技術支援・人材育成室」が、総合相談窓口として、各センターの有する技術シーズを効率よく展開し、中小企業の技術課題の解決を支援する。

（６）オンライン技術指導の実施 【A16】

WEB 会議ツールを使用したオンラインでの技術指導を実施し、電話、電子メール、来所による方法に加えて、技術相談・指導を充実させる。

（単位：件）

区　　分	令和７年度計画	令和６年度計画
オンライン技術指導	600	600

※「（５） 技術相談・指導の実施」における所内指導件数の内数

４．人材育成への支援

（１）企業ニーズに応じた技術研修の実施 【A11】

中小企業の技術力向上、事業転換、新分野進出及び自社製品の市場化を支援するため、技術人材育成講座や次世代産業技術習得研修等を実施する。

技術人材育成講座	実施機関：	産業技術センター（３）、尾張繊維技術センター（１）
ＣＡＴＩＡ研修	実施機関：	産業技術センター（２）
次世代計測加工技術者養成研修	実施機関：	産業技術センター（２）
食品入門講座	実施機関：	食品工業技術センター（４）

（ ）は、計画件数。

（２）研修生の受入 【A11】

中小企業などの技術者を対象に研修生として受け入れ、工業技術の修得あるいは研究のための指導を行い、技術者の養成を図る。

（３）業界団体と連携した研修の実施、講師派遣 【A11】

業界団体、大学等との協働により、中小企業における技術人材に対し、必要な知識・スキルを実践的に取得させるため、座学と実習からなる人材育成研修を行う。また、人材育成を支援するため講師として職員を派遣する。

５．技術開発、技術交流への支援

特定の技術分野での課題解決のための研究会等の開催　【A6】【A8】【A10】

当センターの試験研究成果の発表及び技術の進展に伴う新しい情報の普及を図るために、研究会を開催する。

研究会等　31 回（令和６年度計画　 29 回）　　() 内は開催予定人数

研究会名	担当機関
■技術支援会議（8 人）	瀬戸窯業試験場
■技術支援会議（４人） ■トライアルコア研究会（２回）（60 人） ■包装技術研究会（80 人）	産業技術センター
■技術支援会議（４人） ■常滑焼商品開発研究会（２回）（14 人）	常滑窯業試験場
■技術支援会議（６人） ■製品評価技術研究会（３回）（40 人）	三河窯業試験場
■技術支援会議（30 人） ■漬物技術研究会（60 人） ■食品創造研究会（10 回）（20 人）	食品工業技術センター
■技術支援会議（10 人） ■テキスタイル研究会（２回）（10 人） ■加工技術研究会（２回）（10 人）	尾張繊維技術センター
■技術支援会議（10 人） ■産業資材研究会(10 人)	三河繊維技術センター

【A13】【A15】

６．情報の収集・提供

（１）講習会等の開催　【A6】【A14】

当センターの試験研究成果の発表及び技術の進展に伴う新しい情報の普及を図るため、講習・講演会を開催する。

講習会・講演会等　42 回（令和６年度計画　35 回）　（　）内は開催予定人数

講習会・講演会名	担当機関
■技術講習会（３回）(240 人) ■成果普及講習会（80 人） ■シンクロ入門講習会（30 人） ■シンクロ成果報告会（100 人） ■重点研究プロジェクト Ⅳ期普及セミナー（４回）(120 人)	技術支援部（３室）
■成果普及講習会（30 人） ■総合技術支援セミナー(30 人) ■窯業技術ステップアップセミナー(20 人)	瀬戸窯業試験場
■総合技術支援セミナー（３回）(200 人) ■トライアルコア講演会（２回）(60 人) ■先端技術セミナー（DX）(30 人) ■重点研究プロジェクト Ⅳ期普及セミナー（３回）(150 人)	産業技術センター
■とこなめ焼技術協議会との共催による講演会（15 人） ■総合技術支援セミナー（20 人） ■研究成果普及講習会（30 人）	常滑窯業試験場
■技術講演会(20 人)	三河窯業試験場
■総合技術支援セミナー（50 人） ■研究成果普及講習会（50 人） ■酒造技術研修会（15 人） ■包装技術食品技術協会との共催による講習会（４回）(120 人)	食品工業技術センター
■トライアルコア講演会（50 人） ■総合技術支援セミナー（50 人） ■新規採用者向け繊維セミナー（40 人） ■研究成果普及講習会（50 人） ■重点研究プロジェクト Ⅳ期普及セミナー（50 人）	尾張繊維技術センター
■総合技術支援セミナー（30 人） ■新規採用者向け繊維セミナー（30 人） ■研究成果普及講習会（30 人） ■重点研究プロジェクト Ⅳ期普及セミナー(30 人)	三河繊維技術センター

４．（１）企業ニーズに応じた技術研修で掲載するものを除く。

（２）研究報告、広報資料や展示会によるセンター活動の報告　【A14】

当センターの研究報告、広報誌やインターネット等を活用して情報発信を行う。

① 研究報告の作成、発行

名　　称	発 行 日
あいち産業科学技術総合センター研究報告	毎　　年

② 広報誌等の刊行物

名　　称	発 行 日
あいち産業科学技術総合センターニュース	毎　　月
食品工業技術センターニュース	毎　　月
その他（パンフレット、各種技術資料、講習・講演会の資料など）	随　　時

③ インターネット等による情報の提供

名　　称	発 行 日
あいち産業科学技術総合センター（ＨＰ）	
記者発表資料、更新情報、講習会・講演会情報　等	随　　時
試験用機器情報、技術振興施策に関する情報　等	随　　時
研究報告	毎　　年
あいち産業科学技術総合センターニュース	毎　　月
〃　　メールマガジン	毎月・随時
食品工業技術センターニュース	毎　　月
技術ナビ（あいち産業振興機構ＨＰ）	毎　　月
技術の広場（あいち産業振興機構ＨＰ）	奇 数 月
技術のプラザ（中部経済新聞社）	偶 数 月
知の拠点あいちに関する情報（知の拠点あいちＨＰ）	随　　時
その他	随　　時

④ 展示会等への出展・施設見学・ＰＲ

新産業の創出・育成に積極的に取り組むため、地域中小企業などが開発した新製品・新技術の展示を行うことによって企業を支援するとともに、工業技術に関する展示会等に試験研究成果としての試作品及び施策の案内等を出品して普及に努める。

企業の方から県民の方まで幅広く当センターの活動を理解してもらえるよう、施設や計測機器などを紹介する施設見学会を開催する。

7．依頼業務

企業からの依頼により、試験・分析の実施及び器具、会議室等の貸付を行い、県内の中小企業の試験室としての役割を果たす。また、企業からの依頼を受けての研究も実施する。

（1）製品・原材料の分析・試験等 【A10】

① 製品・原材料の分析・試験等 （単位：件）

区　分		令和７年度計画	令和６年度計画
分　析	化学分析	1,457	1,423
	機器分析	5,201	4,846
一般試験	物性試験	2,047	2,125
	材料試験	96,784	96,297
	その他	3,649	2,888
窯業に関する試験		98	124
機械金属工業に関する試験		18,890	17,006
木材工業に関する試験		1,337	1,471
包装に関する試験		2,728	2,589
食品工業に関する試験		1,222	1,433
繊維工業に関する試験		4,923	5,407
工業デザイン及び機械器具の設計		2	7
試料調製		3,268	3,414
材料加工		52	42
計		141,658	139,337

② 文　書

（単位：件）

区　分	令和７年度計画	令和６年度計画
成績書若しくは鑑定書の副本又はこれらの翻訳書の作成	43	38
文献複写	231	223

（2）機械器具類の貸付 【A7】

企業からの依頼により、次のとおり機械器具を貸し付ける。

（単位：件）

区　分	令和７年度計画	令和６年度計画
工作機械類	39	39
窯業機械器具類	686	686
食品加工機械器具類	60	60
繊維関係機械類	1,212	1,212
ベンチャー研究開発工房機器	470	470
計	2,467	2,467

※機器一覧については、こちらをご覧ください。（https://www.aichi-inst.jp/analytical/machine_rental/）

（３）会議室等の貸館 【A10】

技術開発交流センターホール、会議室等を企業、団体に貸し、会議、講習・講演会等の用に供する。

室　名	規　模　等
交流ホール	定員　273名
交流会議室	定員　80名
研修室　1	定員　100名
研修室　2	定員　60名
研修室　3	定員　40名
共同研究室 1～5	各室　61㎡

※技術開発交流センターについては、こちらをご覧ください。(https://www.aichi-inst.jp/kouryu/)

（４）受託研究の実施 【A9】

企業からの依頼により、受託研究を実施する。

（単位：件）

区　分	令和７年度計画	令和６年度計画
受託研究件数	３	３

８．科学技術の普及啓発

小学生の理科（科学）離れを防ぎ、「科学技術」が楽しく身近なものだということを知ってもらうため、小学生や親子で楽しむ科学技術教室・講座を実施する。

こども科学教室や、その他将来の理系人材の醸成のためのイベントの開催や施設見学を開催する。　【A4】

９　職員の資質向上

職員の資質向上を図るため、学会等へ職員の派遣し、各種研修へ参加するとともに、客員研究員から最新、先端技術の指導を実施する。　【A3】【A6】【A8】

① 高度研究活動推進

当センターの研究活動を強力に推進するために学会等に職員を派遣する。

・派遣件数　１２件（令和６年度計画：１２件）

② 客員研究員による研究指導事業

先端技術に関する研究課題等について指導・助言及び最新技術情報の提供を受ける。

・指導回数　延べ３８回（令和６年度計画：延べ３８回）

③ 職員能力開発事業

研究職員研修実施要領に基づく研修の実施。

・高度計測分析機器研修：「知の拠点あいち」の高度計測分析機器に係る研修を実施する。

・新技術育成研修：新技術の調査、学会誌投稿のための調査、依頼試験の品質向上へ向けた調査等を実施する。

公設試験研究機関研究職員研修（（独）中小企業基盤整備機構）の受講。

・受講者 ２名（令和５年度計画：２名）

Ⅲ　予算概要

１．歳入

（単位：千円）

区　　分	令和７年度当初	令和６年度当初	説　　明
【あいち産業科学技術総合センター費に係る歳入】			
使用料及び手数料	599,873	687,958	
（建物使用料）	(252,515)	(352,263)	
（依頼試験手数料）	(347,358)	(335,695)	分析試験等　141,390 件
財産収入	7,418	7,622	
（土地貸付収入）	(3,731)	(3,731)	（公財）尾州ﾌｧｯｼｮﾝﾃﾞｻﾞｲﾝｾﾝﾀｰ
（物品貸付収入）	(1,160)	(1,160)	機械器具貸付　2,467 件
（物品等売払収入）	(1,650)	(1,608)	生産品・試作品・ﾃﾞｻﾞｲﾝの払下げ等
（建物貸付収入）	(877)	(1,123)	自動販売機の設置等
諸収入	130,388	116,192	
（ＪＫＡ）	(44,132)	(30,000)	補助率 2/3
（雑入）	(1,256)	(1,192)	非常勤職員等雇用保険本人負担分等
（受託事業収入）	(85,000)	(85,000)	
県債	1,161,000	623,000	
一般財源	2,295,675	1,976,820	
小　　計	4,194,354	3,411,592	
【商工業振興費に係る歳入】			
使用料及び手数料（依頼試験手数料）	3,554	0	脱炭素燃料工業炉試験
繰入金	252	287	
一般財源	37,434	23,840	
小　　計	41,240	24,127	
計	4,235,594	3,435,719	

２．歳出

（単位：千円）

区　　分	令和７年度当初	令和６年度当初	説　　明
【あいち産業科学技術総合センター費】			
職員給与	1,254,302	1,296,640	正規職員 160名 再任用職員(短時
報酬等	202,162	178,410	間) 3名 一般職非常勤職員 48名
運営費	709,485	741,417	施設維持管理
（本部運営費）	(635,391)	(670,835)	
（支部運営費）	(74,094)	(70,582)	
研究開発推進費	517,131	527,588	
（試験研究指導費）	(428,626)	(439,083)	
（(試験研究費)）	((103,612))	((90,477))	技術支援部
（(試験研究指導費)）	((325,014))	((348,606))	各センターとの連絡調整を行うとともに、アクションプラン推進のためのプロジェクト推進会議等を開催、対外的な広報活動を実施全体に係る事業の実施
アクションプラン推進費	3,029	3,029	新規の重点研究に向けた産学行政連携の研究プロジェクトを推進
イノベーション創出開発プロジェクト推進費	1,091	1,091	国や県のプロジェクトで実施した研究成果などの地域企業、大学、研究機関への波及の推進
イノベーション成果移転プロジェクト推進費	7,045	6,759	イノベーション創出の専門人材であるマネージャー等の育成、確保、流動化の推進
イノベーション創出人材プロジェクト推進費	4,256	4,325	産業基盤を支える中小企業等の高品質化の促進
地域企業技術力強化プロジェクト推進費	307,832	331,641	地域一体型の製品化等支援
開発型企業重点的支援プロジェクト推進費	1,761	1,761	特別課題研究
（特別課題研究費）	(88,505)	(88,505)	
次世代計測加工技術者養成事業費	2,000	2,227	
施設設備整備費	1,481,532	633,489	
（施設整備費）	(56,158)	(27,280)	
（長寿命化推進事業費）	(1,391,626)	(569,744)	長寿命化工事等
（知の拠点あいち機器更新整備事業費）	(33,748)	(36,465)	
技術開発交流センター管理運営事業費	27,742	31,821	貸館
小　　計	4,194,354	3,411,592	
【商工業振興費】			
産業空洞化対策減税基金事業費	252	287	新あいち推進事業費
知の拠点あいち推進費	20,274	22,531	
（重点研究プロジェクト推進事業費）	(14,217)	(16,300)	重点プロ(Ⅳ期)フォローアップ事業費
（研究開発支援推進事業費）	(714)	(840)	高度計測分析データ解析・情報提供事業費等
（シンクロトロン光センター産業利用促進費）	(5,343)	(5,391)	シンクロトロン光利用促進事業費
知的財産戦略活用促進事業費	56	58	知的財産相談・啓発支援事業費
水素・アンモニア工業炉推進事業費	19,420	0	脱炭素燃料工業試験炉利用支援事業費等
実証研究エリア管理運営事業費	1,238	1,251	エリア維持管理費
小　　計	41,240	24,127	
計	4,235,594	3,435,719	

３．施設の整備計画

試験、研究用機器の整備

試験研究及び指導事業の強化と依頼試験・分析の迅速な処理を目的に、次の機器を整備する。

機　器　名		数量	使　用　目　的
技術支援部	液体クロマトグラフ質量分析計	１式	液体中の微量成分をクロマトグラフィで分離後、質量電荷比で検出して同定する装置
	衝撃電圧発生設備	１式	電気絶縁用碍子等に規定の雷インパルス電圧を印加し、耐電圧を調べる。
	絶縁破壊試験設備	１式	電気絶縁用碍子等に規定の商用周波の電圧を印加し、耐電圧を調べる。
瀬戸窯業試験場	衝撃電圧発生設備	１式	電気絶縁用碍子等に規定の雷インパルス電圧を印加し、耐電圧を調べる。
	絶縁破壊試験設備	１式	電気絶縁用碍子等に規定の商用周波の電圧を印加し、耐電圧を調べる。
産業技術センター	冷熱衝撃試験機（※１）	１式	電子基板や金属、プラスチック製品に急激な温度変化を繰り返し与え、製品の耐久性や劣化を評価する装置
三河窯業試験場	放射率測定器	１式	セラミックス材料などの、常温での放射率を測定します。
尾張繊維技術センター	デザインシステム（※２）	１式	無縫製編機を用いて繊維をセーターや手袋などの形状に編成するための柄データ作成装置
三河繊維技術センター	ロープ引張試験用制御ソフト	１式	試験機本体の制御および試験データを解析する。

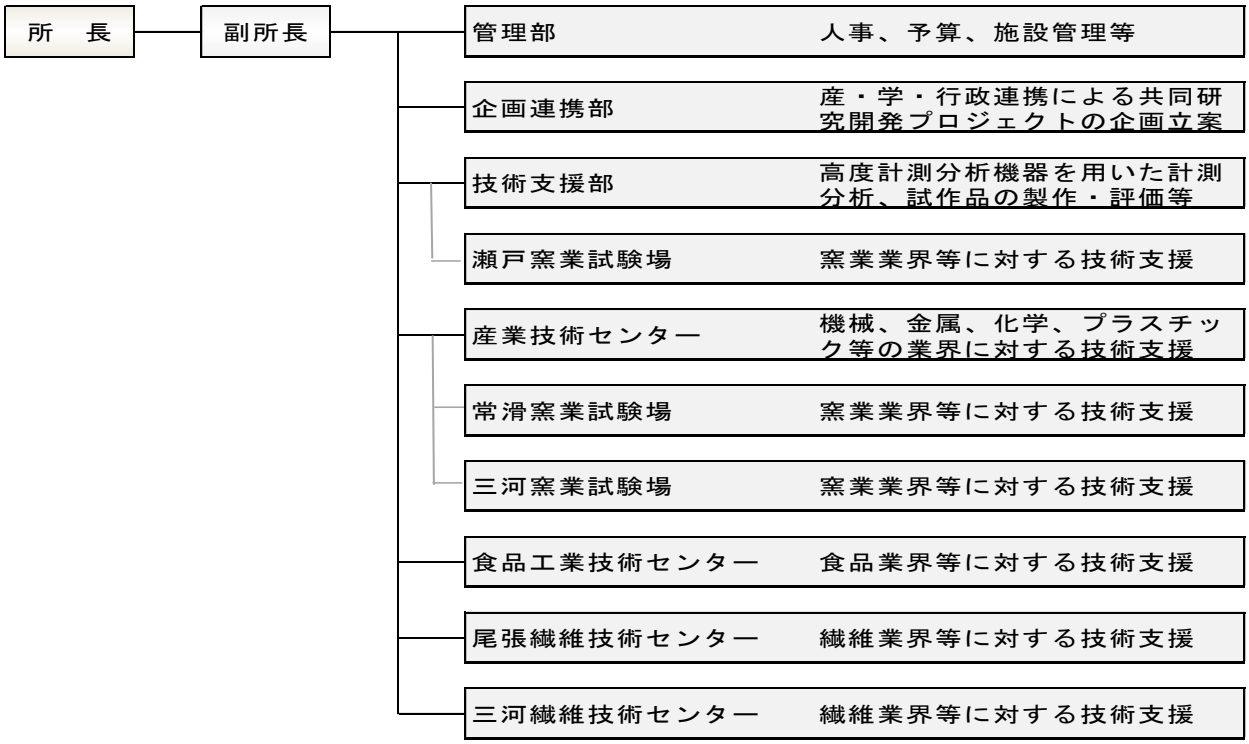
（※１）ＪＫＡ補助事業

（※２）産業競争力強化減税基金事業費

Ⅳ　参考資料

１．組織図及び定数

（１）組織図



（２）定数　　（人）

	本部（瀬戸窯業含む）	産技	常滑窯業	三河窯業	食品工業	尾張繊維	三河繊維	計
定　数	39	54	5	4	24	18	16	160
うち研究職	31	48	4	4	21	15	14	137

２．土地及び建物

（１）土地

	所　在　地	面　積
あいち産業科学技術総合センター（本　部）	豊田市八草町秋合１２６７－１	109,977　㎡
旧瀬戸窯業試験場	瀬戸市南山口町５３７	29,692　㎡
産業技術センター	刈谷市恩田町１－１５７－１	33,056　㎡
常滑窯業試験場	常滑市大曽町４－５０	10,478　㎡
三河窯業試験場	碧南市六軒町２－１５	3,602　㎡
食品工業技術センター	名古屋市西区新福寺町２－１－１	12,943　㎡
尾張繊維技術センター	一宮市大和町馬引字宮浦３５	13,604　㎡
三河繊維技術センター	蒲郡市大塚町伊賀久保１０９	13,193　㎡
小　計		226,541　㎡
技術開発交流センター	産業技術センター敷地内	－　㎡
合　計		226,541　㎡

（２）建物

	構　造	面　積
あいち産業科学技術総合センター（本　部）	鉄筋コンクリート造　３階建	14,896　㎡
瀬戸窯業試験場別棟	木造　平家建	458　㎡
旧瀬戸窯業試験場	鉄骨鉄筋コンクリート造　２階建	3,186　㎡
産業技術センター	鉄骨鉄筋コンクリート造　５階建	12,606　㎡
常滑窯業試験場	鉄骨鉄筋コンクリート造　３階建	3,419　㎡
三河窯業試験場	鉄骨鉄筋コンクリート造　２階建	1,250　㎡
食品工業技術センター	鉄骨鉄筋コンクリート造　３階建	7,863　㎡
尾張繊維技術センター	鉄骨鉄筋コンクリート造　３階建	7,881　㎡
三河繊維技術センター	鉄骨鉄筋コンクリート造　２階建	4,148　㎡
小　計		55,707　㎡
技術開発交流センター	鉄骨鉄筋コンクリート造　２階建	3,112　㎡
合　計		58,819　㎡

＜あいち産業科学技術総合センター＞

■巻末

参考：対応表（アクションプラン→事業）

アクションプラン		大項目	事業項目 中項目（ ）、小項目〇
〈柱１〉イノベーションエコシステムの形成			
A1	イノベーション創出を目指した大型プロジェクト及び応募型事業への参加	1	（１）産学行政の連携による共同研究開発の推進 ①重点研究プロジェクト、②国プロジェクト・各種応募型
A2	技術・設備の相互補完に向けた他機関との連携強化	1	（２）連携体制の構築・維持 ①広域的連携、②他公設試、③他機関の技術者
A3	職員の専門技術の伝承と新技術の習得	9	②客員研究員、③職員能力開発、⑤新技術育成
A4	理系人材醸成の推進	8	※こども科学教室等
A5	産学行政連携研究プロジェクトをはじめとした研究成果の、多様な県内企業への技術移転	3	（１）重点研究プロジェクト成果活用プラザの設置と運用 （３）トライアルコアの運用
A6	高度計測分析機器・試作評価機器の整備・活用	3	（２）高度な計測分析機器（シンクロトロン光含む）の活用 ①高度計測分析機器、②シンクロトロン光との相互利用
		5	（１）特定の技術分野での課題解決のための研究会等の開催 ※地域計測分析機器情報提供システム連携会議
		6	（１）講習会等の開催
		9	④高度計測分析機器研修
A7	機器購入、機器更新、メンテナンスの計画的実施	7	（２）機械器具類の貸付
〈柱２〉中小・小規模企業の企業力強化			
A8	中小・小規模企業のニーズに応える研究	2	（１）特別課題研究 （２）経常研究
		5	（１）特定の技術分野での課題解決のための研究会等の開催 ※技術支援会議等による企業ニーズ把握
		9	①高度研究活動推進
A9	受託研究、共同研究事業等の実施再構築	2	（３）企業の提案による共同研究
		7	（４）受託研究の実施
A10	企業ニーズに応じた依頼試験、貸館等による企業支援	5	（１）特定の技術分野での課題解決のための研究会等の開催 ※技術支援会議等による企業ニーズ把握
		7	（１）製品・原材料の分析・試験等 （３）会議室等の貸館
A11	業界団体と連携した企業等の技術人材育成	4	（１）企業ニーズに応じた技術研修の実施 （２）研修生の受入 （３）業界団体と連携した研修の実施、講師派遣
A12	分野横断型支援に向けた技術センター間連携の強化		
A13	地域企業の技術課題解決のための技術相談・指導	2	（４）新たな知的財産の創出、特許や技術の利活用
		3	（４）産業空洞化対策減税基金（「減税基金」）による支援 （５）技術課題解決のための所内及び現場での技術相談・指導の実施 ①技術相談・指導の実施
		5	（２）会議、委員会への参加、審査員の派遣
A14	技術情報等の発信	6	（１）講習会等の開催 （２）研究報告、広報資料や展示会によるセンター活動の報告 ①研究報告、②広報誌、③インターネット④展示会
A15	地域産業活性化のための地域連携支援	5	（２）会議、委員会への参加、審査員の派遣
非常時対応			
A16	デジタル化による事業継続及び災害・感染症対策に資する支援	3	（６）オンライン技術指導の実施

令和７年度
あいち産業科学技術総合センター事業計画書
令和７年３月発行

あいち産業科学技術総合センター
豊田市八草町秋合 1267-1
電　話(0561)-76-8301
ＦＡＸ(0561)-76-8304
https://www.aichi-inst.jp/